

市民主導でまちの憲法づくり

～ 第1回登別市まちづくり基本条例検討委員会～

6月27日(金)、市役所で『第1回登別市まちづくり基本条例検討委員会』が開かれました。

同委員会は、市民参加のまちづくりの指針となる『(仮称)まちづくり基本条例』を市民主導で検討してもらおうと設けられたもので、公募の市民27人と市職員10人で構成されています。

同条例には、分権型のまちづくりを目指した『自治の理念』『市民参画の拡大』『自主自立性の向上』などの視点が盛り込まれることが考えられますが、同検討委員会が協議を重ね、素案の段階から策定作業を行います。

委員に委嘱状を交付した後、上野市長は「(市民と行政によるまちづくりの)基本となる理念をまとめたものを条例として作りたい。まちづくり基本条例は、まちづくりを進める上での憲法ともいえるようなものになる。目途として来年の3月までにまとめてほしい」とあいさつしました。

同検討委員会は、4つのワーキンググループを設け、研修会を開き、地方分権や自治制度の理解を深めながら素案作りを行います。



まちづくり基本条例への期待を語る上野市長



地域に愛される花壇を

～ 登別市民憲章推進協議会が花壇を創設～

7月6日(日)、登別市民憲章推進協議会のメンバーが中心になって、JR幌別駅西口前の花壇に花苗を植えました。

同協議会は、これまで『花いっぱい運動』で行ってきた花苗のあっせんを取りやめ、今年度からJR幌別駅西口前にあるモニメントを囲む花壇を活用し、独自の花壇を創設しました。

この日は、同協議会や市役所、7町内会、協賛団体などから80人が参加し、5カ所の花壇にマリーゴールドやサルビア、アゲラタムの3種類1,300株を植えました。同協議会の松山惇副会長は「市民憲章の趣旨を理解してもらい、地域に愛される花壇にしたい」と話していました。

アイヌ文化の資料が一堂に

～ 郷土資料館3階展示室オープン～

7月5日(土)、郷土資料館3階に展示室『ふるさとのぬくもり～アイヌの人たちのくらし～』がオープンしました。

これまで展望台として利用されてきた同館3階を、『アイヌ神謡集』を著した知里幸恵の生誕100年にちなみ、アイヌの人たちの生活や暮らしを広く知ってもらおうと、アイヌの伝統文化に関する資料を中心とした展示室に改装。郷土資料館ボランティアグループ『SLG』の協力で、壁の塗り替えや約50点の展示資料の設置などを行いました。

展示品は、アイヌの人たちが儀式や生活に使っていた道具をはじめ、知里幸恵の弟でアイヌ言語学者の知里真志保や伯母・金成マツを年表や写真などで紹介しています。中でも知里真志保が生前に使っていた手帳は、大変貴重なものとされています。

問い合わせ 郷土資料館(☎881339)

